

職員研修

1 令和6年度 研修主題

正しく判断し、主体的に学ぶことができる生徒の育成

～主体的で、対話的な活動の充実を通して～

2 主題設定の理由

現代社会において、私たちの生活を取り巻く環境の変化はとても早く、AIの広まりによりさらに加速していくことが予想される。こうした、日々の変化に対応していかなければならないなか、学校における教育活動では、生徒の「生きる力」を育むことが求められている。「生きる力」を育むためには、学校教育活動において、自ら課題を発見し、解決させるための活動や物事を多面的な視点から考察させる活動、及び多様な情報から取捨選択させる活動などを充実させていかなければならない。そして、そのような活動を充実させるためには、知識や情報、助言、他者との議論等を基にして、正しく判断し行動することができる力を生徒に身につけなければならないと考えた。

また、正しく判断するためには、自分のやりたいことや楽しいと思うことなどを優先させるだけでなく、知識や考えを深めるために自分の考えを相手に伝えながら、必要な知識や情報を主体的に手に入れようとしたり、他の人の意見や考え、及び先人の教え等を受け入れ、自ら学び理解しようとしたりするなどの主体的で対話的な活動を充実させる必要があると考える。

よって、本研修では、自分の思いや考えを自ら学んだことを基に表現させる活動や他者の意見や考えを正確に理解させる活動など、生徒の主体的で対話的な活動を充実させることで正しく判断し、行動することができる生徒を育成したいと考え、研修主題を設定した。

3 研修の方針

- (1) 研修主題に基づいた、共通理解・共通実践を図る。
- (2) 9年間の学びの連続性を生かしながら、小・中連携研修会等を通して、小学校と連携した取組を推進する。
- (3) 指導強化月間の活動を通して、教科・学活・道徳などの授業、その他の教育活動全般を通して、研修主題実現の方法を探る。
- (4) 主体的で、対話的な活動の充実を通して、共通実践事項を決め、学力向上を目指す。
- (5) その他（教育課程、生徒指導、学習指導、保健指導等）は各主任が中心となり適宜提案を行い、共通理解・共通実践が図られるようにする。

4 小・中が連携した重点指導事項

- (1) 基礎基本の問題に取り組ませる。
- (2) いじめに関するアンケートを確実に実施し、実態把握を行い、事後対策を進める。
- (3) 進路についての情報を三校で共有して、保護者への適切な情報提供ができるようにする。

5 研究の組織

